

やすらぎ荘 お話の時間

7月13日(木)やすらぎ荘で久しぶりのお話の時間を開催しました。
今回は、光円寺(耶馬溪町山浦)のご住職をお迎えして、「お盆」が近いということで、その由来についてお話し下さいました。

昔、お釈迦さまのお弟子のひとりに目連尊者(もくれんそんじゃ)という方がおられました。目連尊者は、亡き母親の事が心配になり、確認したところ、あろうことか、餓鬼道(がきどう)に落ちていたことを知りますー

自分に優しく愛情を注いでくれた母親は飲食することができず、身体は骨と皮ばかりになっています。

これを悲しんだ目連尊者は、お釈迦さまのもとへ行き、一部始終を話して救いを求めました。

すると、「安居(あんご・僧侶の勉強期間)が終わり、僧侶が僧院から出てこられる7月15日(旧暦)、お荘厳を整えて、全ての僧にご馳走を振る舞い、共々にお参りしなさい」と、お釈迦さまの教示に従って行ったところ、母親は救われた、というお話ですー

このことから、お盆に「親や先祖を思う気持ち」が行事として伝えられたとか。

ご住職によると、私たちが手を合わせる「阿弥陀如来」という仏様は、お盆の3日間しか帰ってこない仏様ではありません。

「何時でもどこでも、どんな時でも、私たちを照らし、導き、育てて下さる、そんな仏様です」

最後に、親鸞聖人が作詞した恩徳讃(おんどくさん)を皆さんで歌いました。

